

■科目ごとの授業方法・内容：小学校教諭一種免許状

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
【教科及び教職に関する科目】		
初等国語論	小学校国語科の歴史の変遷を踏まえ、その意義を理解し、現代社会で求められている資質・能力を育むために必要な指導内容や言語活動について考える。また、近年では教育者自身もSNSの利用等から書く機会や他者と直接コミュニケーションをする機会が減っているため、教師として適切な日本語を使う手本となるよう、改めて日本語への理解を深め、語彙力をつけるとともに、自己の考えが十分に伝えられるコミュニケーション能力、及び文章表現力を養っていく。さらにその中で教育者自身も言葉による見方・考え方を体得していく。	講義
初等社会科論	小学校社会科教育の理論の理解と体験をととして、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。①小学校社会で取り扱う範囲を説明できる。②日本の地理的特徴を説明できる。③日本の歴史の流れの概要を説明できる。④日本の政治制度の仕組みを説明できる。⑤日本国憲法の役割・基本原理・記載内容を説明できる。⑥地図・年表・統計資料等を利用して教材作成ができる。小学校社会の取り扱う範囲の知識を地図・年表・統計資料を適宜用いながら講義する。	講義
初等算数論	算数科の目標や内容を理解し、「A数と計算」「B図形」「C測定」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の5つの領域とその具体的な内容の系統性について捉えることについて、算数科の指導にあたって必要な基礎的知識・技能を身につける。また、幼児教育での数量や図形に関する保育内容から中・高の数学科教育までの接続と、他教科との関連について、数学的活動の事例をもとに考えていく。さらに、児童がどのように算数科学習を行っているのか、実際の授業場面を通して学び、アクティブ・ラーニングに即した数学的活動を通して思考力・判断力・表現力を身につけることができるよう指導するために必要な教材・学習形態等の工夫について考える。	講義
初等理科論	初等理科の分野は「物質・エネルギー」と「生命・地球」に区分される。「物質・エネルギー」は化学・物理、「生命・地球」は生物・地学の分野であり、さまざまな自然の事物・現象について学習指導に必要な基本的内容の理解を図る。児童に学習内容を理解させるための実験や観察についても考える。小学校教師に必要な知識と技能、思考力と探求力を身につける。	講義
初等生活科論	生活科の目標と特性を理解するために、ピアジェやモンテッソーリの発達理論や生活科に関する歴史的背景及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を理解する。次に、生活科の目標及び内容〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕、〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕、〔自分自身の生活や成長に関する内容〕について理解する。内容によっては2年間におよぶ長期的な内容が含まれているので、見通しをもって指導計画を立案することや、小学校低学年の他教科および社会や理科など中学年の各教科との接続の重要性について学び、小学校生活科における学習評価の基礎的な考え方を理解する。	講義
初等音楽論Ⅰ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について理解し、修得する。幼児・児童の音楽表現を理解し、援助できるように学ぶ。幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、基本的な読譜方法や、音楽理論を学習し、主にピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。	演習
初等音楽論Ⅱ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について深め、教授方法をより発展させて学ぶ。幼児・児童の音楽表現を理解し、幼児・児童の表現したい気持ちを受け止め、援助できるように学ぶ。特に幼児の発達や、年齢による特徴を踏まえて、指導援助ができるよう演奏技能を学ぶ。幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、教育者が必要な援助について考える。主に歌唱での表現活動を高め、各個人の技術レベルに応じたピアノの個別指導を行って技術の向上を図る。	演習
初等音楽論Ⅲ	自然の発声法を学び、教育者としての歌唱力をより深める。幼児・児童の発声・歌唱力の発達について理解し、それに応じた指導援助ができる歌唱指導法を修得する。幼児・児童の季節の歌や唱歌の重要性、幼児・児童にとって歌うことの意味を理解し、その指導法を学ぶ。初等音楽論Ⅰ、Ⅱで学んだピアノも活かしながら、より歌唱を豊かに導くよう、技術の向上を図る。合唱やカノンなども経験し、人と合わせて歌うことの重要性や、表現したい心のあり様を体感し、指導における幼児・児童理解へと繋げる。	演習
初等図工論Ⅰ	子どもの発達に合った造形遊びや教材、環境づくりへの理解を深めるとともに、学生自身の造形表現への興味や技術、能力を高める。具体的には、子どもの表現活動において重要な要素である描画活動やバスや絵の具などの描画材、立体制作の指導に必要な廃材などの素材を用いた基礎的な実技を実体験しながら習得し、保育・指導の際の具体的な指導法や発達段階による援助の違いについて考える。また、子どもの制作活動や遊びの実態について具体的な事例を用いて学ぶ。	演習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
初等図工論Ⅱ	いろいろな素材や自然に触れ、遊びに取り入れたり自分なりに発見したり組み合わせたりする等して表現することは、子どもの表現力や想像力を養う上で重要な経験である。そこで、グループや個人で身の回りの様々な紙工作や廃材を用いて立体製作をし、自然物を使った造形にも取り組んでいくことによって、保育者として子どもの可能性を広げる技能を習得する。また絵の具を使った様々な技法を習得し、それらを生かして平面作品を完成させる。	演習
初等家庭科論	現代社会における家族・家庭生活の多様化や課題について現状を知り、小学校家庭科の社会的・文化的価値を理解する。その上で、学習指導要領における家庭科教育の目標と内容、生活の営みに係る見方・考え方について理解する。具体的な授業実践を見て行く中で、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の各分野に関する基礎的な知識や、授業計画の際に考えなければならない指導方法・使用教材・学習形態・小学校家庭科の他教科との関わり等、教育者の指導力を支える視点を身につける。	講義
初等体育論Ⅰ	子どもの運動発達と教育について理解する。乳幼児期から児童期にかけての運動遊びが「身体教育」から「スポーツ教育」への発展過程であることを紹介する。各年齢にあった集団遊びの具体的な指導法、環境構成について学ぶ。運動遊びの必要性を理解し、安全に関する留意点、用具別の遊びの方法を演習形式で実践するなかで身につける。	演習
初等体育論Ⅱ	幼児期および児童期における運動発達に応じた運動遊びを実技により理解する。子どもたちの発達を促すため、子ども達の身体的、精神的、知的および社会性の発達を理解するとともに、年齢に適した運動遊びの内容・保育の方法を身につける。また、年齢に適した運動遊びを計画、指導する力を養うとともに、指導時の健康、安全についても学ぶ。	演習
初等英語論	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な、英会話表現（語彙・文型等）をはじめとした運用力を身につけるため、学習指導要領における内容事項について学ぶ。また、児童・生徒に国際的な視野を育むために教師としてできることを考えるため、英語圏の児童に関連する様々な文化的な事柄に理解を高めながら、教師自身の異文化理解を深めていく。主に体系的な練習を通して必要な知識と言語能力を段階的に習得する。授業の毎回、口頭・筆記小テストを実施する。	講義
初等国語科教育論	学習指導要領の小学校国語科における指導計画の作成及び内容の取扱いについて把握し、児童・生徒に育みたい三つの柱や言葉による見方・考え方について理解する。また様々な授業実践を参考に、主体的・対話的で深い学びを目指した言語活動について考えていく。その上で、具体的な児童・生徒の姿を想定しながら、単元の目標に沿った学習計画の作成、本時の計画作成に取り組んでいき、ねらいを達成するための学習形態、発問、使用教材を熟考し、模擬授業を行う。自分の授業を振り返り、他者と授業評価をし合う中で、授業を客観的に見つめ、改善していく力を身につける。	講義
初等社会科教育論	小学校社会科教育の理論の理解と体験をとおして、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。①小学校社会科教育の目標・内容・方法について説明できる。②小学校社会科の各学年の単元構成の説明ができる。③学習指導計画を作成できる。④問題解決型の学習の意義と方法を説明ができる。⑤情報機器を用いた授業ができる。小学校社会科教育の理論と実践（学習計画案作成・模擬授業・情報システムの利用等）の解説と、その知識に基づいた実践ができるように必要に応じて演習形式の参加型授業もおこなう。	講義
初等算数科教育論	まずは、現場での小学校算数科の実態をもとに、学習活動を構成する要素について考える。また、単元や学習目標に即してコンピュータや電卓などを用いた様々な授業例を概観しながら、情報機器の適切な活用法について学ぶ。最終的には教材研究を行い、児童の習得を目指した教材構成・開発をし、学習到達目標に基づいた指導計画を各自が作成する。工夫・計画・実践・省察するというPDCAサイクルを行っていく中で、児童が授業の中心となり、主体的・対話的・より深い学びが達成できるような教育活動ができる教師としての指導力を養う。	講義
初等理科教育論	理科の目標、内容及び指導方法を把握し、理科の学習指導に必要な基礎的な能力を身につけることをめざす。また、指導案立案に当たって必要となる知識や技能を広げる。児童が身近な自然について問題を見出し自ら科学的に解決することができるための指導法、教師自らが自然を愛する心情をもつことおよび、理科の見方・考え方を身に付けることの重要性を理解する。学習指導要領の区分「物質・エネルギー」及び「生命と地球」にそって構成の主旨を理解し、授業の組み立てにあたっての留意点を見出し、実践に生かせるように指導案の作成と評価方法について検討する。	講義

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
初等生活科教育論	生活科の特性に関する知識及び指導力を培う達成目標から、学習指導要領の小学校生活科の目標、内容についての理解を深め、教材開発や授業設計へとつなげていく。主として学生が指導計画を立て、模擬授業等により実践し、討論等により評価し、そして改善する、所謂、PDCAサイクルの形態で行う。立案に際しては、ICTの利用、障害のある児童への配慮、道徳教育との連携を工夫する。そのため、様々な教材の効果的な活用や学習形態の例を事例を用いて検討し、模擬授業後は意見交換をすることにより、客観的に指導を見つめなおし、改善する視点を身につける。	講義
初等音楽科教育論	小学校教育の基本として、「生きる力」や、三つの視点などを理解したうえで、音楽科教育の意義と目標を理解する。表現領域である、歌唱・器楽・音楽づくり、鑑賞領域と共通事項を理解し、教授するための基本的音楽知識について理解するとともに、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みについても理解する。鑑賞教材や、歌唱共通教材についても理解を深め、感じ取ったことを言語化する方法についても考察し、指導法を学ぶ。授業を行う際の、教材研究についても深め、授業計画を作成し、模擬授業を行いながら実践力を身に付ける。授業における評価の観点についても理解する。	講義
初等図工科教育論	小学校図画工作科で求められる三つの柱を理解し、学習指導要領における目標と内容を理解する。また、授業実践の際に必要な各学年にふさわしい題材や材料・用具への理解を深め、実際の授業場面を想定し、対象学年に沿った指導案を作成する。時には現代の美術作家の作品や活動を知ることによって美術に対する視野を広げるとともに、独自の題材開発につなげていく。また様々な美術鑑賞を行いレポート作成し、芸術（美術）についての社会的・文化的価値について考え、感性を豊かにし、指導者としての資質を高める。小学校図画工作科で求められる三つの柱を理解し、学習指導要領における目標と内容を理解する。また、授業実践の際に必要な各学年にふさわしい題材や材料・用具への理解を深め、実際の授業場面を想定し、対象学年に沿った指導案を作成する。時には現代の美術作家の作品や活動を知ることによって美術に対する視野を広げるとともに、独自の題材開発につなげていく。また様々な美術鑑賞を行いレポート作成し、芸術（美術）についての社会的・文化的価値について考え、感性を豊かにし、指導者としての資質を高める。	講義
初等家庭科教育論	小学校家庭科学習指導要領における目標と内容について理解を深め、小学校家庭科における中高との体系的なカリキュラムを考える。また、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の各分野について、児童用教科書を用いて教材研究を行い、情報機器を含めた様々な教材を用いた実践の具体例を学ぶことによって、児童の学習意欲を引き出す家庭科の指導法について研究していく。さらに学習指導計画作成の基本をおさえ、実際に指導計画を立て、実践と振り返りを行うことで、授業実践力を養う。	講義
初等体育科教育論	よりよい体育授業を想像する上で必要不可欠な知識を学んでいく。まず、スポーツ教育としての体育について学び、小学校学習指導要領・体育編の目的・目標及び内容と評価について理解する。また、学習形態や学習過程、器具・用具の工夫等について理解し、体育科としての学習指導の方法や考え方を身につける。最終的に単元計画及び指導案作成をした上で、模擬授業を行い、反省と改善を図る。	講義
初等英語科教育論	外国語（英語）教育における理論と実践の両面について学び、基本的な指導力を養う。指導案・教材の検討・作成作業も行う。主として小学校児童を対象とし、幼・保・中・高の連携も視野に入れて多面的に言語教育について考えていく。指導案の作成や教材研究の方法を学び、模擬授業を通して、実践的な指導力も身につける。	講義
教育原理	教育の意義や目的について理解し、現代の学校教育の問題を認識し、望ましい教育の在り方が考察できる。教育に対する正しい見識を持つとともに、将来の教育者、保育者としての自覚と責任意識を身に付ける。教育思想史からみる教育の意義と目的、人間の発達と教育、現代の家庭教育や学校教育の諸課題、学校・教育諸制度を中心に講義する。学生には、自分の育ち、受けてきた教育を振り返り、今日的な教育諸問題に関心と意識化を図り、講義の深まりをねらう。	講義
教職論	教職の意義と教員の役割、教員の職務内容（研修、服務、身分保障等を含む）、職場の人間関係、保護者や地域社会との関係など、子どもをめぐる環境の変化と教師のしごとの変化に関する諸問題の検討を通じ、現代日本の教師の在り方を考える。	講義
教育制度論	日本および諸外国の教育制度について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき設計され、その背景にある思想が制度を歴史的・社会的に成立させてきた。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、諸外国との比較を交えて、それらを構成する制度のしくみの展開や課題を検討する。さらに学校での教育活動を支える教育行政の組織やその働き、学校経営のしくみについて理解を深めていく。	講義

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
教育心理学	幼児・児童及び生徒に関する心身発達と学習過程について、基礎的知識を獲得し、実場面の教育指導に関する基礎的考え方を習得すること。さらに、当該教育領域に新しい知見が現れてもすぐに対応出来る人材育成をする。特に、考える習慣を身につけることを念頭に、パワーポイント教材を活用しながら、実際場面における課題を視覚的かつ模範的に提示し、これらの課題解決への取り組みをレポート応答させる形式を随所に織り込む。加えて、クイズ形式の小問題も適宜出題する。確たるエビデンスに基づいた教育展開へ期待し、簡単な心理学実験演習課題も織り込んだ授業展開を行う。	講義
児童心理学	生涯発達における児童期の発達の意義を明らかにし、発達の諸側面の特徴と児童期発達の概要、現在問題となっている不登校、いじめ、虐待について要因と介入のあり方、児童期と青年期の過渡期にあたる思春期の発達の特質について説明する。これらを通じて、教育実践への応用を考察する。	講義
特別支援教育学	障害の思想と理念、特別支援教育の理念を基礎基本に据え、障害のある幼児児童生徒に対する教育・指導・支援の在り方を修得し、演習を通して適切かつ有効な実践的支援力を養う。また、肢体不自由、視覚・聴覚障害、知的障害、発達障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの理解に基づく支援計画・記録及び評価はどのように行われているのかについて、事例を通して学んでいく。さらに、障害はないが特別のニーズのある幼児、児童を含めた、特別の支援を必要とする幼児、児童を主体とする保育・教育の在り方、進め方について、知識を深めながら演習に取り組み、適切かつ有効な実践的支援力を養う。	演習
初等教育課程論	学校教育における教育課程について理解し、教育実践を行う上で必要な知識を学ぶ。また、意義と内容、教育課程編成を行う方法等に関する事項について、学習指導要領や幼稚園教育要領から基礎的・理論的な理解を図っていく。さらに歴史的変遷から現代的な課題への取り組みに至るまで多角的な視点から学ぶ。講義を中心として基本的な理解を図り、発問および討議を織り交ぜて考察を深めていく。	講義
初等道德教育論	講義の主な柱は、実践事例紹介と模擬授業実施。現場で実践された事例を紹介し、道德の時間の魅力を知らせ、夢と希望の生き方につながる学習であることを実感させる。また、現代的な課題であるいじめやSNS問題等は複数教材を紹介し、重点意識を持たせる。模擬授業では、指導案作成をはじめとして、教材・発問・板書等、具体的スキルを身につけ、道德教育を推進する主体者であることを意識させる。道德教育の内容・発達段階・評価等の基礎基本については、目標である「よりよく生きるための基盤となる道德性を育てる」ことを常に意識し理解させる。	講義
初等特別活動指導論	「小学校学習指導要領」を踏まえて各特別活動について目標、内容及び指導方法を把握し、小学校教育における特別活動の意義および活用方法について理解する。集団活動の種々の面でのその活動方法を学ぶとともに、児童間のコミュニケーション能力を高める方法を知るために、学生自身がアクティブ・ラーニングを体験することによって、「特別活動」をより効果的に運営できるようになる。	講義
総合的な学習の指導論	総合的な学習の時間の目標、内容及び指導方法を把握し、小学校教育における総合的な学習の時間の意義および活用方法について理解する。また、児童が身に付けるべき思考力・判断力・表現力等および学びに向かう力、人間性等のあり方について考察し、そのために必要な探究課題の設定方法を軸に総合的な学習の時間のあり方について理解する。	講義
初等教育方法学	授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。受講生は「授業設計」にグループで取り組む。授業設計には、学習目標、教材分析、学習過程、評価方法、ICTの活用法が含まれる。授業設計にあわせて受講生間の意見交換、マクロティーチング等を行うなど実践的に学習する。	講義
初等生徒・進路指導論	生徒指導は、全ての児童生徒を対象に、教育目標である人格形成に向けて学校生活全体を通じ日常的に行われるものであることを理解し、生徒指導の意義を考える。また、問題行動、いじめや不登校など事例検討を通して実践的な指導力を養い、児童生徒の自尊感情や自己有用感が育まれるような場や機会の設定の在り方について例示する力を身につける。さらに、進路指導を包括するキャリア教育の意義や原理を理解し、教育活動全体を通じた指導の在り方を検討する。	講義
初等教育相談	子どもの発達を支援するために、教育相談の意義や理論、幼児期、児童期、思春期の発達の特徴、カウンセリングに基づく教育相談のあり方について説明し、幼児・児童の心理的問題を解決するために、教育相談に活用できるカウンセリング技法、不登校・不登園、いじめ、非行、虐待被害等の課題に対する教育相談のあり方、教育相談の適用範囲と他機関などとの連携についても説明する。	講義

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
教育実習（幼・小）	実際の小学校・幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、小学校・幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。観察・参加実習において実習生自ら児童・幼児と関わり、児童・幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。教壇授業や研究授業・責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。	実習
教育実習事前事後指導	事前指導においては、小学校教育実習、もしくは幼稚園教育実習の意義・目的をおさえ、必要性を理解する。既習の内容を踏まえて、小学校・幼稚園教育において実践力を養い、教育を深める。学習指導だけではなく、児童の生活指導や、掃除、給食など含めた学校生活全体での教師の役割を認識し、実践力を高めるよう学習する。事後においては、経験した実践を振り返り、学びを考察する。	実習
小学校教育実習	実際の小学校での観察・参加・指導実習を通して、小学校の一日の流れや小学校教諭の様々な役割を把握する。担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育を実践する。観察・参加実習において実習生自らが児童と関わり、児童の実態を把握し、個々に応じた適切な学習指導を実践し、省察する。教壇授業や研究授業の経験を通して児童の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、教科指導についての学びを深める。指導教諭の学級経営での観察・参加・指導実習を通して、生徒指導や学級経営の重要性を学ぶ。	実習
教職インターンシップ	幼稚園、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を長期的に観察、体験し、学校における教育活動についての、実践的、具体的に理解する。学校教育の様々な場面における、教師の業務について知り、学校の教育活動について具体的に理解する。また、教員と幼児・児童との関係について具体的に理解する。	実習
教職実践演習（幼・小）	これまでの学修や活動、実習体験を通じて身に付けた資質能力を振り返り、現段階で自分にとっての自己課題を確認する。また、グループワークにて、それぞれの実習体験をもとに各園や学校のさまざまな特色や教育・保育方針について共有し、事例研究や模擬授業を行う中で他者と意見交換をしていくことで、新たな視点を身につけ、不足している知識や技能を補う。教育者・保育者としてあるべき姿を各自が持ち、自らも学び続ける態度を養う。	実習
教育学概論Ⅰ	教育の役割と期待への考察。今日における教育への期待とその役割を考え、生涯学習社会における学校教育について考察する。人間形成における教育の機能を理解する。本講義では、人間の教育の必要性、教育の意義・目的、人間の発達・成長と教育、学校教育、家庭教育、子ども理解、特別支援教育などについて学ぶ。	講義
教育学概論Ⅱ	教育という営みの多様性について認識するとともに幅広い視野で教育について考えるために、教育学・教育史、ジェンダー・特別支援教育、スポーツ科学・身体論という三つの視角から授業を行う。	講義
サービslラーニング	大学で学んでいる知識・技術を活かし、地域社会のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験する。このことによって、専門的知識の意義や意味を深く理解し、あわせて自らが社会を構成する一員であるという意識を高めることを目的としている。地域の課題に目を向け、自分たちで活動団体や課題をみつけ、活動に参加あるいは自ら活動をおこなう。授業は、まず、サービslラーニングあるいはボランティア活動についての講義と仲間づくりをおこない、グループを結成し、その後、それぞれのグループが見つけたボランティア活動をおこなう。最後に、ポスター発表という形式でまとめ、まとめの授業でいくつかを紹介し、体験や知識の共有をおこなう。学生は約16名のグループにわかれ、各グループに教員が1名つき、相談・助言のもとに実施。	演習
セーフティプロモーション	セーフティプロモーションとは、injuryおよびそれによる安全・安心への脅威を保健医療上の課題としてとらえ、公衆衛生的アプローチによって予防しようとする取り組みを示す。ヘルスプロモーションが疾病を念頭においた健康づくりであるのに対し、セーフティプロモーションは外傷を念頭においた生活の場における安全・安心づくりであり、個人・集団（学校を含む）・地域・国家レベルでの取り組みへの理解が必要である。セーフティプロモーションの概念、我が国における各領域におけるセーフティプロモーション、セーフコミュニティ、セーフティプロモーションスクールについて公衆衛生的視点から予防について理解することを目指す。	講義

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
【教育職員免許法施行規則第66の6に定める科目】		
社会と人権（日本国憲法）	憲法の内容は、「人権」（国民の権利と義務）に関する記述と、「統治」（国家のしくみ）に関する記述に分けることができる。本講義では「人権」に関する規定の解説をおこなう。憲法の人権規定にかかわった具体的な裁判の解説をとおして、憲法が私たちの日々の生活にいかに関与している存在であるのかということの理解を深める。またその時々憲法をめぐるニュースを紹介する。	講義
体育講義	子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。また、運動における教育的意味を学び、運動指導の理論や知識を深める。	講義
体育実技	身体活動を通じて、健康保持増進及び運動技術の向上を図る。運動、スポーツ、健康に関する知識や方法を身につけ、健康な生活を送るために必要な基礎知識を習得し、生涯スポーツの一助とする。集団行動を基に、球技では集団の中の個人としての役割を果たすことにより、社会性や協調性を身につけることを目的とする。また、器械運動・水泳・陸上競技等においては、個人としての能力向上を目指し、課題を克服するための資質や能力を身につけることを目的とする。様々な運動経験を通して教育者・保育者としての資質や能力の向上を目指す。	実技
Speaking & Listening	学習者は、基本的な英語の表現・パターンを応用して、自分が伝えたいことを英語で表現できるようになる。英語の発音やイントネーションについての基本的な知識を持ち、それらを英会話の中で活かすことができる。主に、実践的なコミュニケーション力を伸ばすために、体系的な学習内容に関して繰り返し実用的練習（学生同士における練習〔ペアワーク・グループワーク〕及び担当者により評価の対象となる個別スピーキング・リスニング練習）を行いながら、必要な知識と言語能力を段階的に習得していく。	演習
Writing	学習者は、辞書等を参照しつつも、自分が相手に伝えたいことを英語で表現できるようになる。学習者は、基本的な英語の表現・パターンに習熟し、パラグラフの構造を理解し、英語表現に役立てることができる。学習者は、伝える相手や状況に応じて、適切な表現を用いて英語でコミュニケーションができる。文法ではなく、場面やことばの働きを中心にシラバスは組まれる。想定される活動：基本的な英語の表現・文のパターンを参照して、自分にあった表現をする。8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	演習
Reading I	様々なタイプの英語テキストから、大切な情報を読み取る力を身につける。英語の基本的な語彙と文型を理解し、基本的な英語テキストから、必要な情報を収集し整理することができる。英語テキストには様々な種類があることを理解し、その種類にあった読み方ができる。英語テキストでの情報提示の形式を理解できる。8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	演習
Reading II	学習者は、学術的にやや専門的な内容を含む英文を読んで理解できるようになる。内容重視のアプローチで、大学生の知的好奇心を満たすようなアカデミックな内容を英語で読む活動が中心となる。英語テキストの理解を深めるために、英語以外の資料・図なども積極的に活用される。授業の難易度は使用されるテキストにより決まるので、受講者はそれを見て自分に合うか判断する。	演習
Process Writing	学習者は、テーマを決めて、推敲を繰り返し、比較的長めのまとまった文章がかけられるようになる。学習者は、自分の英語表現を繰り返し英語教員にチェックされフィードバックを受けることにより、次第に自分中心の文章から読み手を意識した文章を産出できるようになる。学習者が表現したいことは個人個人で異なるため、個別指導が行われる。学習者は、すでに基本的な英語の表現・パターンに習熟していることが期待される。想定される活動：学習者はテーマを決め、自分が伝えたいことが、どのようにすれば英語で効果的に表現できるかを、個々に教員と相談しながら、学んでいく。	演習
時事英語	学習者は、ラジオ・新聞やインターネットなどでの報道でよく使われる英語表現の特徴を理解し、時事英語を聴いたり読んだりして理解できる。諸外国の英語報道だけでなく日本が英語で海外に発信されている報道も教材に含める。教育・看護系の学生が興味をもちそうな内容を開講時期の報道から適期選択する。想定される活動：時事英語でよく使われる英語表現のリストの作成、インターネット上の英文記事の読解・音声による報道の聴解。英語学習に役立つインターネット上のリソースについてその使い方を学ぶ。	演習

授業科目の名称	講義等の内容	授業方法
異文化交流（海外語学研修）	学内での事前指導（２時間×３回＝６時間）を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中（８月）に姉妹校であるカナダ・バンクーバーアイランド大学の英語セミナーに参加し、語学教育を受けるとともに異文化交流を図る。現地の保育・保健施設、文化施設の訪問や現地の人々との交流を通して、教師、保育士、看護師としての豊かな国際感覚を身に付ける。研修中はホストファミリー宅に滞在してバンクーバーアイランド大学に通う。研修後は異文化体験における学修成果をまとめ、報告会で発表する。	演習
情報リテラシーⅠ	急速に進みつつある情報化の流れの中で、私たちは目的に応じて主体的に情報を選択・収集し、分析・編集した上で発信する等、さまざまな情報を適切に活用していく能力が求められる。私たちがこの情報化社会に対応できる能力を身につけるためには、情報機器（パーソナルコンピュータ、タブレット端末等）の基本的操作の習得も必要不可欠となる。本授業では、パーソナルコンピュータをはじめとする情報機器の基礎知識と基本的操作の習得に加え、Microsoft OfficeアプリケーションソフトのWord/Excel/PowerPointの操作方法についても学ぶ。そして、これらのアプリケーションソフトを用いて図表の作成を含むレポートや課題作成、論文作成やプレゼンテーションなどの演習を通して主体的かつ積極的に情報を活用していく能力の育成を目指す。	演習
ICT活用演習	教育や保育の現場で情報機器を活用する場面を想定して実践的な課題に取り組み、ICTの活用方法を深化させる。小集団で企画構想を練り役割分担して、課題の作成から発表、および相互評価までの学習活動を行う。ネットワーク上のリソースやコミュニケーションツールを活用し、学習者が協同して主体的に学習を進めるよう授業を展開していく。	演習